今月のトピックス

特集

会社訪問 - No.75
株式会社シムスサービス 様

「働き続けられる会社」を目指して
住宅機器配送からルート配送へ業容を拡大

千葉県鎌ケ谷市に本社を構える㈱シムスサービス（上田喜孝代表取締役）は、住宅機器配送が祖業であるが、上田社長が平成 15 年に就任以降、郵便配送や学校給食配送にも進出し、業務の幅を拡大してきた。

新事業への進出の理由として、「自社で長年にわたって活躍できる職場環境づくり」を挙げた上田社長。同社では引き続き、高齢者や女性など、誰にとっても働きやすい職場づくりを通じて、従業員の働きがいの醸成に繋げようとしている。



白地に黄色い帯の入った同社のトラックの前で笑顔を見せる上田社長

■ドライバーの生き方に合わせた働き方を実現 従業員の離職防止に繋げる

㈱シムスサービスは、先代社長（上田社長の義理の父親）によって、鎌ケ谷市に設立された運送会社である。先代社長は、大学卒業後に大手運送会社 A 社に入社し、流し台などの住宅機器を輸送していた。30 歳になり、独立して同社を立ち上げ、当初は住宅機器をメインに扱っていたが、その後百貨店の店舗什器の輸送や、大手運送会社 B 社から委託された輸送を扱うようになった（その後撤退）。現在同社では、住宅機器配送のほか、郵便配送や学校給食配送を行っている。

郵便配送は、平成 21 年頃から同社で扱うようになった。郵便配送では、集配センターから集配郵便局に 365 日態勢で郵便物を輸送している。

また、学校給食配送は、鎌ケ谷市内にある学校給食センターの建て替えに伴い、「市内の運送会社に学校給食配送をお願いしたい」という市の意向により、12 年ほど前から同社で扱うようになった。学校給食配送では、鎌ケ谷市内の小・中学校に給食用の食材を配送している。

住宅機器配送では手荷役になることが多いこと、また輸送する荷物の種類が多彩であり、それらを覚える必要があることなどから、専門的な仕事となっており、30 ～ 50 代の体力に自信のあるベテランドライバーが住宅機器配送を担っているという。

一方で、郵便配送ではカゴ台車を使って輸送を行っており、また学校給食配送では食材の品質管理の観点から保冷コンテナを使っており、こちらもカゴ台車に載せて輸送を行っている。住宅機器配送に比べると、郵便配送や学校給食配送では荷役時の負荷がそれほど大きくないこともあり、住宅機器配送にあたっていたドライバーが 60 歳を迎え、体力的に負担の少ない郵便配送や学校給食配送に鞍替えして勤務を継続するケースがあるという。また、住宅機器配送では女性ドライバーが 1 人在籍しており、家庭との両立を図りながら配送の仕事に就いているという。

同社では、働くドライバーが「ライフスタイルに合わせた働き方」ができるように、ドライバーの勤務体制を工夫している。

また、先述の女性ドライバーは、16 時に仕事を終えると買い物をして、子どもが学校から帰る時間に合わせて帰宅できるようにしているという。

さらには、昨年同社に入社して、現在学校給食配送の仕事に就いている 38 歳のドライバーは、「仕事とプロレスラーの両立」を果たしているという。15 時に仕事を終えると、その足でトレーニングジムに向かい、試合出場に向けて肉体づくりに勤しんでいる。



上 田 喜 孝
代表取締役

また、郵便配送と学校給食配送に就いているドライバーのうち半数程度は、全てのルートの配送ができるようになっている。ルートを覚えれば誰でも働くことのできる体制にしたことで、例えば子どもの急病などで仕事を休まなければならなくなった時にも他のドライバーがカバーできるため、休暇が取得しやすくなっている。

同社では、日本郵便と鎌ケ谷市役所という優良な取引先を確保し、郵便配送と学校給食配送を始めたことで、以前に比べると売上面で安定しているという。それによって給与の安定にも繋がり、結果として従業員の離職防止にも効果があったという。

「専門性が高く、荷役作業が伴う住宅機器配送に比べると、郵便配送や学校給食配送はルート配送となっており、荷役時の体力的負担が少なく、仕事によっては短時間勤務となっています。現在当社には女性ドライバーが 1 人在籍しています。また、住宅機器配送から郵便配送や学校給食配送にキャリアチェンジしてがんばっている高齢ドライバーもいます。当社では、定年後も給与を維持しながら働くことのできる職場環境づくりを進めており、現在では 73 歳や 72 歳でハンドルを握っている高齢ドライバーもいます。一方で、今後もドライバー不足が加速していくことを考えると、女性や高齢者にも仕事のしやすい職場環境であることを一層強くアピールしながら、女性ドライバー



同社では少人数によるグループ制での安全教育を毎月実施している



郵便配送や学校給食配送といった公共サービスを提供するため、業務前点呼に力を入れている



「誰にとっても働きやすい職場づくり」は、従業員の間にも笑顔をもたらす

をはじめとして、もっとドライバーを増やしていきたいと考えているところです」（上田社長）

上田社長は、コンピュータ関係の専門学校を卒業後、２年ほどコンピュータ会社でエンジニアとして仕事をした後、３年ほど建設会社に就職し、土木の仕事をしながら大型自動車運転免許を取得した。その後、先代社長の娘と結婚したのを機に、25 歳の時に同社に入社した。なお、上田社長が入社した当時、現在地にある同社の本社営業所は先代社長家族の自宅を兼ねており、従業員数は７、８人ほどだったという。

建設会社に勤めていた頃は、朝８時頃から夕方までの勤務で、雨になると仕事が休みになっていたにも関わらず、毎月 50 ～ 60 万円ほどの給与を手にしていた。しかし、同社でドライバーとして仕事を始め、毎日早朝から夜まで一生懸命に働いても、手にした給与額は建設会社時代の半分にも満たず、上田社長は大きなカルチャーショックを受けたという。

しかし、上田社長はそれにめげずに、「現場で汗水流して一生懸命働いているドライバーの皆さんに、十分な給与を持って帰ってもらえるような会社にしていきたい」と強く決意。同社でドライバーとしてトラック運送業界での経験を積みながら、28 歳の頃からは運行管理者として配車スケジュールを組むようになった。

そして、上田社長が 31 歳になったある日のこと、先代社長から突然「社長を引き継いでほしい」と言われ、平成 15 年５月に社長に就任した。31 歳での社長就任は、上田社長にとってまさに青天の霹靂だったという。

31 歳という若さで先代社長から社長の座を引き継いだことに対して、上田社長は「社長に就任した当時はまだ若く、トラック運送業界での経験もまだ不十分だったこともあり、右も左も分からないような状態でしたが、千葉県ト協松戸支部の先輩方からのご指導をいただきながら、業界に対する理解を徐々に深めることができました。現在、私は松戸支部副支部長を務めており、長年にわたる支部活動を通じて、業界内に多くの仲間をつくることができました」と振り返っている。

仕事に取り組む中で大事にしていることを上田社長に尋ねると、「取引先に対しても、そして当社の従業員に対しても、『誠心誠意』の気持ちをもって仕事に取り組んできました。私が社長に就任して以降、住宅機器配送という仕事に加えて、郵便配送と学校給食配送というこれまでの当社になかった新しい仕事にも取り組んできましたが、日々一生懸命に仕事に励む中で、仕事に対する姿勢をご評価いただいた方々から新しい仕事のお話を頂戴し、『これだったら当社でもできる』というものを積極的に取り入れてきたことで、今の当社の姿があるのではないかと考えています」と語った。

最後に、今後５年後、10 年後を見据えて、同社が目指す姿について、上田社長に伺った。

「現在私は 54 歳で、５年後には 59 歳、10 年後には 64 歳になっています。５年後の当社は、現在とはあまり大きくは変わらないだろうと感じています。体力勝負で日々仕事をこなしている住宅機器配送だけではなく、従業員のライフスタイルに合わせた働き方ができる郵便配送や学校給食配送にも当社の仕事の幅を広げ、現在住宅機器配送の仕事にあたっている 50 代のドライバーが、今後 10 年後、15 年後も当社で働くことができるようになったことで、将来への見通しが明るくなったのではないかと思います。また、郵便配送と学校給食配送という仕事を取り入れたことで、経営面で安定したこともあり、当社で一生懸命に働いているドライバーに少しでも満足してもらえるような給与を払うことができるようになり、社長就任時に心に抱いた私の目標が少しでも実現できたのではないかと感じています。今後は、体力が求められる住宅機器配送から４トントラックによるルート配送の仕事に徐々にシフトしていき、高齢者でも働くことのできる職場にしていくことで、今後も加速していくであろうドライバー不足を少しでも緩和していきたいと考えています。一方で、10 年後となると、当社の将来を担う次世代の経営者への引継ぎが課題になってくると考えています。ルート配送の仕事を増やしていくとともに、現在当社で活躍している管理者も含めて、次世代の経営者候補を１人、もしくは２人育てていきたいと考えています」（上田社長）

ホットにゅーす

■「一つとして同じ波はない」 サーフィンで自然と向き合う

上田社長の趣味は、サーフィンである。

上田社長は勝浦市の出身で、時間ができると勝浦にも近い九十九里浜や一宮町で波に乗っている。また、９月末には鹿児島県の種子島までサーフィン旅行に出かけたという。

「サーフィンをしていると、季節や自然を肌で感じることができます。また、波の大きさや高さはそれぞれ異なっており、一つとして同じ波は存在しません。その時々に来る波に集中する。そこにもサーフィンの魅力があります」（上田社長）



南の島の豊かな自然を愉しむ、サーフボードを抱えた上田社長

企業プロフィール

株式会社　シムスサービス

代表取締役　上田　喜孝

所在地　千葉県鎌ケ谷市初富 235-17

従業員　21 人（うちドライバー 19 人）

車両数　22 台